

たねニュース

平成31年(2019年)1月1日発行(隔月1回1日発行)

- ごあいさつ
- 北海道向けサイレージ用トウモロコシ品種選定のポイント
- アメリカ酪農視察報告 ~育成牛の管理~
- 第70回日本酪農研究会 静岡県静岡市にて開催
- 道央支店より新年ご挨拶 ●道東支店より新年ご挨拶
- 勝源神社で合格祈願!

ごあいさつ

平成31年の新春を迎え、皆様におかれましては穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。また日頃より弊社事業につきましては特段のご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

このたびの弊社による種子表示違反並びに偽装、隠蔽の不祥事につきまして、お客様、関係者の皆様には多大なご迷惑をおかけしておりますこと深くお詫び申し上げます。二度と同じことを繰り返さない様に、再発防止策の完全実施を全社一丸となって取り組み、お客様、関係者の皆様の信頼回復に努めて参ります。

国内の生乳生産においては、都府県の生産量の減少に拍車がかかり、北海道の生産量への依存度が高くなっております。また牛肉生産では高止まりの素牛価格により、肥育経営も厳しい情勢が続いております。後継者不足や労働力不足の問題は酪農畜産現場に限らず、日本社会全体の課題となっております。

一方、平成30年6月末に環太平洋パートナーシップ協定(TPP)の関連法が成立となり、早ければ本年の年明けより手続きが始まる見通しです。TPP関連法案には酪農畜産農家への補助拡充が盛り込まれると思っておりますが、価格競争力の強い海外の輸入農畜産物が今後の国内農業にどのような影響となるか不安を隠せない状況です。

毎年繰り返される自然災害、昨年は北海道に台風が上陸した直後に、北海道胆振東部地震の甚大な被害が発生し、多くの尊い命が失われました。ご冥福

と被災地の皆様方の速やかなる復興をお祈り申し上げます。そして地震によりブラックアウトが発生し、全道各地の酪農現場では搾乳が出来ず、せっかく搾った生乳も廃棄を余儀なくされました。

また梅雨の様な状態が長く続き全道各地では、一番牧草の収穫が遅れ、品質が低下し、更にはデントコーン収量も平年以下の地域もあり、生乳の増産への影響が心配されます。このような異常気象は今後も予想され、従来の牧草、飼料作物の作付体系のみならず、作付けする種類も検討しなければならないと考えております。

北海道150年の節目において、酪農畜産現場が黎明期を経て長い開拓の苦勞を超え、現在に至る中、創業者黒澤西蔵翁が立ち上げた弊社は、生産者の方々に育てられてきました。今回の不祥事で皆様に厳しい目で見つめられている中、信頼回復の為には、改めて生産者の方々にお役に立てる様、酪農・畜産の生産現場に密着した商品と技術を開発、提案し、「技術と誠意で農業奉公」の真の意味での実践が責務と捉えています。これからも地域環境に適した自給飼料の増産と有効活用により、飼料作物の管理技術や飼養管理技術の向上を進めると共に、酪農畜産の振興と地域の活性化に貢献したいと考えております。

皆様のご健勝と益々のご繁栄を心からご祈念申し上げます、ご挨拶といたします。

平成31年元旦

雪印種苗株式会社

代表取締役社長 高山 光男